

▼ 12月16日
餅つきやしめ縄づくりで交流



出作地区で、年末恒例の「3世代交流の会」が開かれました。これは、お餅を食べながらお話をし、交流を深めようと企画されているもので、毎年みんなが心待ちにしている行事の一つです。

みんなで協力しながらお餅をつき、ついたお餅はぜんざいにしておいしく食べました。また、しめ縄づくりも行われ、子どもたちは高齢者に名人技を伝授してもらいながら、交流を深めました。

▼ 12月14日
餅つき交流「ぺったん」



古城幼稚園で、「ふれあい交流おもちつき」が開かれ、園児100人が祖父母と一緒に餅を作りながら、世代間交流をしました。

孫と一緒に餅つきをしようと参加した祖父母は70人。「みんな孫みたい」と話す祖父母に囲まれ、園児たちは楽しそうに、交代で子ども用のきねを振っていました。ついたお餅は、園庭でみんなで味わいました。

▼ 12月3日
西高柳が文化祭の売り上げを寄附



災害時に役立ててほしいと、西高柳地区(宇野洋一区長)は、文化祭の売り上げの一部を松前町大規模地震災害対策基金に寄附しました。

同地区は、平成20年度から寄附を続けています。「自分たちのまちのために貢献できればうれしい」と話す宇野区長に対して白石勝也町長は「こうした温かい心が広がってくれることを願っています」と話していました。

▼ 11月25日
徳丸一座熱演



10月16日から11月25日まで開かれた愛媛県民総合文化祭。このうち、演劇公演が松前総合文化センターで開かれ、徳丸一座と未来演劇Kプロジェクト(今治市)が、それぞれの持ち味を生かした演劇を披露しました。

徳丸一座は、大勢の観客が見守る中、大型時代劇「名月赤城山」を披露。出演者の3幕90分の熱演に、観客は引き込まれていました。

▼ 12月19日
人権の花をプレゼント



松前幼稚園の園児が、プランターで育てたビオラなどを老人ホーム和楽園のおじいさんおばあさんに贈りました。

贈呈式では、園児代表が「みんなで一生懸命お世話をして、きれいなお花を咲かせました。どうぞ受け取ってください」と元気に挨拶しました。贈呈式後は、園児が踊りを披露したり、和楽園の皆さんとゲームをしたりして、心温まる時間を過ごしました。

▼ 12月15日
凧を手作りしたよ



後世に伝え残したい地域の良さを、子どもたちと一緒に学習する「かんざき塾」。本年度第7回として「凧作り」が行われ、大勢の子どもたちが参加しました。事前に絵を描いてきた子どもたち。集会所で地域の人に作り方を教わりながら完成させました。この日は風がなくて凧を飛ばせませんでした。紺堂詩織ちゃん(5年)と中川颯太くん(4年)は世界に一つの凧を手で「家で凧上げをするのが楽しみです」と笑顔で話していました。

▼ 12月7日
高齢者としめ縄作りに挑戦



北伊予小学校の5年生が、地元の高齢者と一緒にしめ縄を作りました。コツを教えてもらったり、手伝ってもらったりしながら、3つに分けたワラの束をより合わせ、1本の太い縄を上手に作っていく児童たち。作ったしめ縄は持ち帰り、「新年が良い年になりますように」と願いながら自宅に飾ります。和田歩乃佳ちゃんは「最初は難しかったけど、優しく教えてくれたので楽しくできました」と笑顔を見せていました。

▼ 11月28日
農家が新米をPR



岡田・松前うまい米づくり部会の「岡田もち試食会」は、(株)松山生協岡田店で開かれ、部会員らがつきたての餅を配りました。

同地区で栽培されている餅米は、良品で粘りのある「岡田もち」として有名です。試食会ではこの「岡田もち」と同部会のエコ栽培米「松前育ち」の販売も行われ、会場は新米を味わおうと訪れた人でにぎわいました。